

学校教育目標	心豊かでたくましく自ら学び考える判田っ子の育成
育成を目指す資質・能力	書く力の育成

	学力状況について	学習状況について
児童生徒の課題	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 大分県学習状況調査(5年生)では、国語、算数ともに全て県平均・目標値を上回った。しかし具体的な内容で見ると、国語では「漢字を書く」「文章を書く」、算数では「数の相対的な大きさ」について課題がある。全国学力・学習状況調査(6年生)の正答率は、国語算数ともに県平均・全国平均を上回っていた。理科の「知識・技能」で県平均を下回っており、「生命」「粒子・地球」について課題がある。	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 全国学力・学習状況調査から、国語では、目標に応じて文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることについて課題が見られた。算数では、「変化と関係」(使いかけのハンドソープがあと何プッシュすることができるかを調べるために、必要な事柄を判断し、求め方を書く)について課題が見られた。
	これまでの学力向上の取組に対する児童生徒の状況(授業及び授業以外の側面から) ・自信をもって自分の思いや考えを伝えることができるように、ペア・グループ活動の目的・場面・状況を明確にしたことで、考えは伝えられるようになっていくが、話合いの質を高めることには繋がっていない。 ・他者の思いや考えと自分との違いや共通点を明らかにできるよう、ICT機器等の活用や板書の構造化を図ったことで、思考の視覚化ができるようになっていく。 ・全校統一の「振り返りの視点」カードを活用することにより、自らの成長を実感したり、新たな目標や課題を発見したり、成就感につながっている。	
指導の状況	1 組織的な授業改善の取組状況 ・校内研修では、算数科を主とした検証授業を実施し、授業改善を常時図りながら、児童の表現力を高めることができた。 ・「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」の流れを確立し、板書の構造化を図ってきたことで、児童が見通しをもって主体的に授業に参加できるようになっている。 ・児童の思考の流れを大切に、主体的・対話的で深い学びの実践を目指している。 ・ICT機器を積極的に活用することで、児童の意欲関心が高まり、課題をつかませたり考えを表現したりする場において効果を上げている。	
	2 その他の学力向上に向けた指導の取組状況 ・昼の学習タイム(チャレンジタイム)を活用して、基礎・基本の定着を進めている。 ・小中一貫教育として、学習規律の徹底を図り、年間4回の合同研修で確認し合い取組を進めている。 ・学習に向かう力を支える学級経営を営み、安心できる居場所の大切さを再認識している。 ・地域や保護者と連携して、自力登校、基本的な生活習慣、家庭学習の徹底を図っている。	

学力に関する達成指標

単元末テストにおいて、全学年の平均点を85点以上にする。

今後の具体的な取組	【授業改善】 〈授業改善のテーマ・重点〉 授業改善による確かな学力の定着・向上 小中一貫教育の推進	【家庭・地域との協働】
	〈取組内容〉 ①教科担任制の導入、一人1台端末の活用、個に応じた指導・支援 ②言語活動を充実させ、主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業の積み重ね ③学校図書館を積極的に活用し、意欲的な読書活動を促す指導を継続的に行う ④小中合同研修会を年間3回実施	〈家庭・地域の取組内容〉 ・小中一貫教育の推進 ・判田「学習規律」の徹底 ・「判田っ子家庭学習の手引き」活用 ・小中合同の学力向上会議や学校運営協議会を通じ、小中学校に共通する課題の把握や対応策の検討を行う。
	〈取組指標〉・〈検証指標〉 ①低学力層(50点未満)の児童の割合を3%以下にする。 ②「授業で学んだことが分かった」と回答する児童の割合を90%以上にする。 ③各学年における学期ごとの目標冊数を達成する児童の割合を70%以上にする。 ④「小中連携を意識した授業に取り組んでいる」と肯定的に回答する教員の割合を80%以上にする。	〈家庭・地域の取組指標〉 ・小中一貫教育便り、学年通信を必ず読む。
	【授業改善以外の学力向上の取組】 ①学習規律の徹底 ②継続的な学習活動の工夫(チャレンジタイム・学校図書館の活用等) ③ICT機器の効果的な活用 ④学習評価の研究・効果的な実施方法の模索 ⑤地域や保護者との連携(自力登校、生活習慣、家庭学習等)	